【実施区域・面積】

神奈川県、0.3ha

【生態系タイプ】

二次草原・草地、低層湿原・湿地、水田

【実施区域の状況】

本サイトは、神奈川県茅ヶ崎市の北部、行谷（なめがや）地区の一画に位置する。本サイトには休耕田、あぜ道、湿った草地、細流など様々な湿地環境があり、希少な湿地性の動植物の生息・生育環境となっている。
近隣での盛土を契機に、この環境を維持するため、当団体は2010年から、休耕田の所有者から了承を得て保全管理作業を実施してきた。2015年度には、一般社団法人関東地域づくり協会・公益財団法人日本生態系協会の「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に選定され、2018年には「かながわ地球環境賞」を受賞した。本サイトを含む行谷地区は、2003年から2005年度に実施された茅ヶ崎市自然環境評価調査において、”特に重要度の高い自然環境を有する地域（コアマップ対象地区）”に抽出されている。

【目標】

休耕田、あぜ道、湿った草地、細流などの様々な環境を保全し、これまでに確認されてきた希少な湿地性動植物が生息・生育できる環境を維持する。特に、近年個体数が減少している動植物については、その回復を目指して実施区域の生物多様性の増進を図る。

【主な活動内容】

○湿地管理区域

カヤネズミ等が生息しているので、ヨシやオギなどの高茎湿地に維持するとともに、ヨシ等のエリアが拡大しないよう適切に管理する。また、ゴムシート池やプラ舟を管理・修繕することで1年を通した止水環境を創設し、水生昆虫の生息にとって好適な環境となるようにする。さらに、導水を管理して湿った草地を維持する。秋以降は希少植物に配慮しながら、外来種植物の駆除や草刈りを行う。

○草地管理区域

コウヤワラビ等の希少な植物が減少しないよう、外来種植物の駆除を行う。南側の土地はオオブタクサを除草し、オギ原にする。

○全区画

ヨシ等があぜ道や周辺の田圃に広がらないよう草刈りを行う。また、器具機材の長期利用及び事故防止のため、毎年1回の点検・整備を行う。

【モニタリング計画】

茅ケ崎市の自然環境評価調査における指標生物を中心に、できるだけ多種類の動植物を対象に、目視で生息・生育の状況をモニタリングする。

【実施体制】

市民団体「茅ヶ崎野外自然史博物館」の会員が上記活動を実施する。同団体の年次総会等に併せて、本活動計画を毎年1回点検し、5年に1回程度改定する。



実施区域の全景



カヤネズミ（成獣）



プラ舟による止水域の創出

【計画期間】

令和７年９月～令和12年３月